

子どもの権利に関する学習映像資料概要(児童生徒向け DVD：9分55秒)

制作 札幌市教育委員会

編集 子どもの権利に関する教育実践研究会



1

タイトル「みんなで考えよう 子どもの権利！」



2

効果音：チャイム

画像：学校図書館の様子



3

女子：何を見ているの？

男子：ユニセフのパンフレットを見ているんだけど、僕たちと同じくらいの子どもの写真が載っているんだ。

女子：本当？見せて。



4

女子：この子は、地面に寝ているわ。

男子：先生、この子は何をしているの？

先生：これは外国の「ストリートチルドレン」と呼ばれる子どもで、住む家がなく路上で生活しているんだよ。



5

男子：この写真の子は何をしているのかな？

先生：この子は学校へ行かずに、家の仕事を手伝っているんだ。小さな子どもでも家庭の労働力として働いている国や地域が、世界にはたくさんあるんだよ。



6

女子：あれ、この子は銃みたいなのをもっているわ。まさか、本物？

先生：そう、これは本物なんだ。「子ども兵士」と呼ばれ、武器の使い方を習い、実際の戦場へ出ていくんだよ。

男子：戦場に…。

先生：世界では飢餓や病気、戦争などさまざまな理由で、何百万人も子どもたちが5歳未満で亡くなっているんだ。



7

女子：この写真は何かしら。みんなで集まって会議をしているわ。

先生：これは、国連総会の様子だよ。世界の人たちも、子どもたちの置かれている状況を何とかしようと考え、1989年に国連総会で「子どもの権利条約」を採択したんだ。日本もこの条約に参加しているんだよ。

女子：子どもたちを守るためのきまりがつくられたのね。



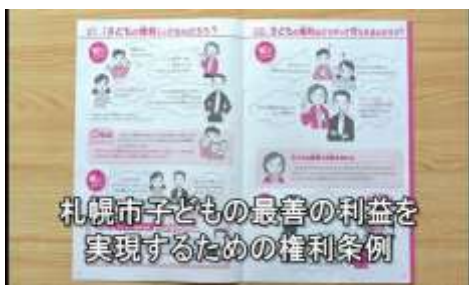
8

先生：みんな、何を調べているの？

男子：あ、先生。「子どもの権利」のことを調べているんだけど、よく分からなくて…。

先生：このパンフレットを見たことある？

男子：あるある。学校で配布されたよね。えーと、中身は…。



9

先生：これは、札幌市が平成21年に施行した「子どもの権利条例」について紹介したパンフレットよ。

男女：子どもの権利条例？

先生：正式には「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」といって、子どもの権利を守るために、札幌市としてのきまりをつくったのよ。



10

女子：これは札幌市議会の様子かしら？多くの人たちが参加しているわ。

先生：さまざまな分野の人たちによって、何回もの会議を重ねてつくられた条例なのよ。



11

先生：条例に取り上げられた子どもの権利には、大きく次の4つがあるよ。どのような権利なのか、1つずつ見ていきましょう。



12

先生：まずは、「安心して生きる権利」についてだけど、あなたたちの身近には、何かに悩んだり、苦しんだりしている友だちはいないかな？

女子：日本では「子ども兵士」などはないけれど、いじめや虐待に苦しんでいる人がいるわ。



13

先生：いじめや虐待、体罰、差別などで苦しむ子どもがいない社会を目指して、条例では「安心して生きる権利」が定められているよ。誰もが安心して生きるために、お互いが相手を思いやることが大切なんだね。

女子：全ての子どもたちが安心して暮らしていけるまちを、子どもと大人みんなで作っていくということね。



14

先生：次に「自分らしく生きる権利」のことを考えてみましょう。あなたたちは自分の思ったことや考えたことを素直に伝えたり、表現したりできているかしら？

男子：自分の考えが他の人と違うと思うと表現できない時があるかな。

先生：人と違うことは恥ずかしいことではないよ。一人ひとりの個性はとても大切なもので、あなたたちは自分の思いや考えを、自分に合った方法で自由に表現することができるよ。



15

先生：このような権利を「自分らしく生きる権利」というわ。

男子：「自分らしく」というのは、いいね。

先生：でも、いくら「自分らしく」と言っても、相手の気持ちを考えない言動や人の心を傷つけるようなことをしてはいけないわよ。

女子：相手の自分らしさを奪ってはいけないということなのね。



16

先生：次に「豊かに育つ権利」についてだよ。あなたたちは、勉強したり遊んだりするなど、様々な経験をしているよね。



17

女子：今日の音楽の授業で歌を歌ったわ。

男子：ぼくは休み時間に好きなサッカーをしたよ。

先生：勉強したり、遊んだりすることや、芸術、文化、スポーツに親しんだりすることも子どもの権利なんだよ。



18

女子：これは、何をしているところかしら？

男子：何かそうじをしているようだけど。

先生：これは、子どもたちが地域のゴミ拾いをして、自分たちのまちをきれいにしている様子だよ。このような環境を守るための取組に参加することも、子どもの成長には大切なんだね。



19

女子：たくさん雪が積もっているわ。

先生：これは、高齢者の家の雪かきをしているところだね。

男子：札幌は冬にたくさんの雪が降るからね。

先生：このような経験をすることで、雪国で暮らすための知恵を学ぶこともできるんだよ。



20

女子：色々なことを経験したりチャレンジしたりすることが大切なのね。

先生：そうなんだ。子どもは、勉強したり、遊んだり、自分の好きなことに打ち込んだりするなど、様々な経験をすることで、自分で考え判断する力を身に付けていくんだよ。

男子：ぼくも大人になるまでに、色々な経験をしたいな。だけど、失敗するんじゃないかと心配になっちゃうんだよね。

先生：失敗しても大丈夫。失敗して学ぶこともたくさんあるよ。



21

先生：最後に「参加する権利」のことを考えてみましょう。



22

男子：あれ、みんなで何をしているんだろう。

女子：子どもが話し合いをしているようだけど。

先生：これは、子ども運営委員会といって、児童会館やミニ児童会館のルールを決めたり、行事の計画を立てたりしているのよ。あなたたちも学校では学級会で意見を出したり相談したりしているわよね。



23

男子：昨日の学級会でクラスのめあてを話し合ったよ。

女子：みんなで意見を出し合って決めたわ。



24

先生：子どもにも、自分にかかわることについて、自分の考えを言う権利があるの。これが「参加する権利」なのよ。

男子：「参加する権利」かあ。自分の考えを伝えることが大切なんだね。

先生：「参加する権利」には、他にも次のようなものがあるわ。



25

女子：子どもが大人に何か渡しているわ。

男子：右側の人、どこかで見たことがあるなあ。

女子：札幌市の市長さんじゃない。テレビでみたことあるわ。

先生：これは子どもが札幌市のまちづくりについて考え提案する札幌市子ども議会の様子なの。子ども議員が提案書を手渡しているのよ。



26

男子：でも、子どもが提案して役に立つことがあるのかな。

先生：子どもからの提案は、札幌市のまちづくりに生かされているのよ。例えば、子どもが安心して生活できるように、大人が仕事と家庭のバランスを保つ「ワーク・ライフ・バランス」について、子ども向けのパンフレットを作成することを提案したのよ。

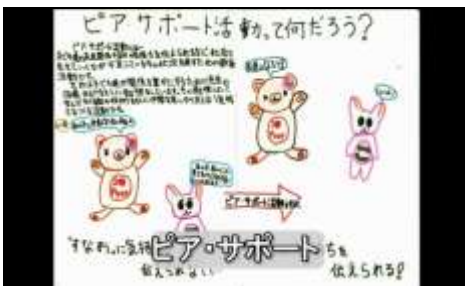


27

女子：その提案はどうなったの？

先生：その提案を受けて札幌市は小中学生のために、「ワーク・ライフ・バランス」についてのパンフレットをその年のうちに作成したのよ。

男子：すごい。子どもからの提案が実現したんだね。



28

先生：これは、子ども議会に参加した子どもたちが、いじめのない学校をつくるために、子ども同士の交流や「ピア・サポート」の取組について、提案した時の資料だよ。



29

女子：「ピア・サポート」って何？

先生：「ピア」は「仲間」、「サポート」は「助けること」。「ピア・サポート」とは、子ども同士がお互いを助け合う活動のことだよ。

男子：子ども同士の方が相談しやすいことってあるよね。



30

女子：どのような活動があるの？

先生：友達との関係をつくるために、聞き方や話し方などのコミュニケーションの方法を学ぶ活動があるよ。

男子：ふーん。どんな聞き方や話し方をすると気持ちを伝え合うことができるのかな。



31

先生：例えば、聴き方では「体をむける」「話す人を見る」「あいづちをうつ」「最後まで話を聴く」などが大切だよ。こうした「ピア・サポート」の考え方や方法を知ること、子どもたちがお互いの権利を尊重できるようになれるといいよね。



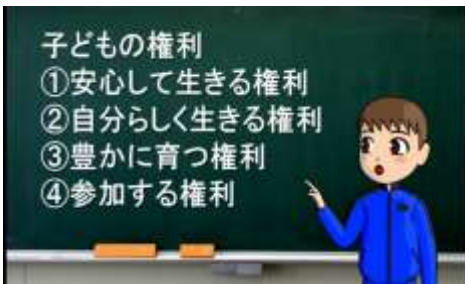
32

先生：さあ、子どもの権利について分かったかしら。

男子：はい。まず、国連で「子どもの権利条約」が定められ、その後、札幌市で「子どもの権利条例」が制定されたんだよね。

女子：条例では子どもの権利を大きく4つにまとめていたわ。

先生：そうね。それでは、条例の4つの権利をもう一度確認してみましよう。



33

女子：わたしたち子どもが自分らしく安心して成長するための4つの権利ね。

男子：えーと・・・「安心して生きる権利」、「自分らしく生きる権利」、「豊かに育つ権利」、「参加する権利」だね。ぼく、自分の権利も他の人の権利も大切にしていきたいな。

先生：そうね、その気持ちが大切よ。



34

先生：さあ、これを見ているみなさん。みなさんも子どもの権利について考えてみてください。そして、自分や相手のためにどんなことを大切にするべきか考え、行動していきましょう。



35

全員：タイトル「みんなで考えよう 子どもの権利！」